

## 〔I〕 昭和27年度 終末テスト

ローマ字教育実験学級，昭和27年度終末テストは各学級において，45時間指導の後実施するもので，〔I〕見ながら書く，〔II〕ローマ字で書く，〔III〕黙読（質問を含む。），〔IV〕音読（質問を含む。）の4種類を2日間にわたって行うものである。

その要領は下記のとおりである。

	種 類	問 題	用 紙	時 間	採 点
第1日	〔I〕見ながら書く	文部省で作成	文部省で印刷・配布	4分	文部省で行う
	〔II〕ローマ字で書く	〃	〃	10分	〃
	〔III〕黙読	〃	〃	問題3分 質問3分	〃
第2日	〔IV〕音読	〃	〃	問題3分 質問5分	〃

第1日には，〔I〕見ながら書く，〔II〕ローマ字で書く，〔III〕黙読の3種類をこの順序で続けて実施する。ただし各種類の問題用紙を全部1度に配るのでなく，一つのテストがすんで，その答案を集め終ってから，その次の問題用紙を配るようにする。

第2日（間に日をおかないようにする。なるべく第1日の翌日。）には「〔IV〕音読」だけを実施する。このテストは，ひとりひとりについて実施するものであるから相当の時間を要する。（詳しくは後述する。）

テストを終わってから

（省略）

### 〔各種類の問題の実施方法〕

#### 第1日

#### 〔I〕見ながら書く

##### 1 児童に対する注意

- (1) 紙を裏向きに配りますから，「始め。」と言うまでは問題を読んではいけません。

- (2) 「始め。」と言ったら、紙をあけて、左側に書いてあるローマ字文を見ながら、それと同じ文を右側のわくの中へそのとおりに書きなさい。書くまえに、右側のわくの上に書いてある注意をよく読みなさい。

わかち書きなどがふだん勉強しているときと違っていても、そのまま左側のおりに書くのです。

- (3) 字の大きさや字と字との間、ことばとことばの間のあけ方などにも注意して、わくの中へきちんと書ききれるように注意して書きなさい。

- (4) 書くときに線を引いてはいけません。

- (5) 名まえの所はあとで書くのです。

## 2 実施

- (1) 「始め。」(いっせいに始めさせる。)

- (2) (4分たったら)「やめ。」(いっせいにやめさせる。)

(この時間はあらかじめ児童には知らせない。)

- (3) 名まえの欄に必要な事項を記入させる。男女別はそれぞれの文字を○でかこませる。

- (4) 集めて番号順にとじる。

## 〔Ⅱ〕 ローマ字で書く

### 1 児童に対する注意

- (1) 紙を裏向きに配りますから、「始め。」と言うまでは問題を見てはいけません。

- (2) 今度の問題は、紙の左側に、漢字とかなとで文が書いてあります。その文を読んで、それと同じことを右側のわくの中へローマ字で書くのです。

ローマ字で書くときには、大文字・小文字の使い方、わかち書きなどは、ふだんの勉強のときと同じようにして書きなさい。また、いろいろの符号も必要なところへまちがえない

ようにつけなさい。

(3) 書くときに線を引いてはいけません。

(4) 名まえの所はあとで書くのです。

2 実施 [I] に同じ。(ただし時間は10分。)

### 〔Ⅲ〕 黙 読

#### 1 準 備

(1) テスト実施前に、問題用紙(2枚)を必要部数だけ順序にとじておく。

(質問の用紙をいっしょにとじないように注意すること。)

問題用紙をとじるときは半分に折らないで、そのまま重ねて、紙の左肩をとじる。

(2) 今回の黙読の問題は、特に長い文を選んで出したが、これは、所定の時間(3分間)内に読み通してしまうことを全く予想していない。

だれもが読み通せないであろうことを予想しているのである。だから、非常に長い文であり、読む時間は短かいが(この時間はあらかじめ児童に知らせてはならない。)自分の読めるだけの速さで、読めるところまで読めばよい。いくら読み残してもかまわないのであるということを児童に対して納得の行くように説明し、いきなり長文を与えることによって、心理的に動揺を来たし、平素の実力が発揮できないようなことが起らないようにしていただきたい。

#### 2 児童に対する注意

(1) これから紙を配ります。紙は2枚をいっしょにとじたのと1枚のとあります。はじめに1枚のを裏向きに配り、次に、とじたほうの紙を裏向きにして配ります。どちらもあけて読んではいけません。

(2) 「始め。」と言ったら、とじたほうの紙をあけて、文を読ん

てください。今度の文は少し長くて、全部は読めないでしょうが、読めなくてもかまいません。落ちついてどんどん読んでいってください。

(3) あとで質問に答えてもらいますから、そのつもりで読んでください。

(1枚の紙のほうは、もう1度「始め。」と言うまであけてはいけません。)

(4) 「やめ。」と言ったら、読み終わったところに赤鉛筆で「J」印(黒板に書いて示す。)をはっきりとつけてください。(所定の時間は3分であるが、これはあらかじめ児童に知らせてはならない。)

(5) 「J」印をつけ終わったら、また紙を裏向きにして机の上において、そのまま待っていてください。(もう1枚の紙をあけて読んだりしてはいけません。)

(6) 名まえのところはあとで書きます。

(7) 次にもう1枚の紙のほうの説明をします。この紙は質問です。

(8) 「始め。」と言ったら、紙をあけて質問に答えてください。やり方は紙に書いてありますから、それをよく読んでそのとおりにやってください。

(9) 「やめ。」と言ったら、すぐにやめてください。(所定の時間は3分であるが、あらかじめ児童には知らせない。)

(10) 名まえのところはあとで書きます。

### 3 実 施

(1) 「始め。」とじたほうの紙をあけて読みなさい。

(2) (3分たったら)「やめ。」、「J」印を忘れないようにつけなさい。

(3) 名まえのところを書いてください。2枚とも書いてくださ

い。

- (4) 2枚とも名まえのところを書き終ったら、裏向きにして机の端におきなさい。
- (5) (全児童が書き終ったのを見届けてから、)  
「始め。」質問のほうをやってください。
- (6) (3分たったら)「やめ。」
- (7) 名まえのところを書きなさい。
- (8) 裏向きにして机の上において待っていてください。
- (9) 問題・質問別に集めて番号順にとじる。

## 第 2 日

### 〔IV〕 音 読

#### 1 準 備

- (1) 児童の控え室を、テストをするへやのとなりに設ける。
- (2) 控え室にはなるべく助手をおき、テスト中、児童が騒いだりしないように注意させる。
- (3) テストは教師自ら行うことをたてまえとするが、在籍児童数が多い場合などは、他の教師の協力を得ることもやむを得ない。
- (4) テストをするへやにも助手をおき、正確に時間をはかるようにする。
- (5) テストのすんだ児童は、控え室には入れないようにする。
- (6) テスト用紙（児童に読ませる分。）は各児童とも同一のものをを用いる。この問題用紙は適当な厚紙などで裏打ちをしておく。
- (7) 質問は各児童に1枚ずつ渡して記入させる。

#### 2 児童に対する注意

- (1) 今度の問題は、ローマ字の文を先生に聞えるくらいの声を出して読んでもらうのですが、ひとりずつ別のへやで読んで

- もらいますから、このへやにいる人は騒がないでください。
- (2) 問題の紙は机の上に、裏向きにして置いてありますから、「始め。」と言ったら、紙をあけて読み始めるのです。
- (3) 「やめ。」と言ったらやめてください。

教師は、各児童ごとに別の問題用紙を用意し、読みの態度等を観察しつつ、「やめ。」と言ったときに読めた箇所に赤鉛筆ではっきり「」印をつける。児童の名まえも教師が記入する。

音読に際して、読みの態度等の観察について

- ① 児童が読めなかったことばは、その語の上にV印をつける。たとえば、  
Hudan, watasitati ga oto o  
ii-~~ar~~wasu tame ni,
- ② 語句や行をぬかして読んだときは、その部分に\_\_\_\_\_（下線）を引いておく。
- ③ その他、意味を考えないで読んだり、内容にそぐわない調子で読んだり、ぽつりぽつりとつかえながら読んだりしたものは、その傾向の著しい児童についてだけ、下記のひな型どおりの観察表の該当欄へ「V」印をつける。
- なお、記入に際しては、赤鉛筆もしくはペンを使用してください。

- (4) 次に質問の紙を裏向きにして渡しますから、「始め。」と言ったら、やってください。やり方は紙に書いてありますから、よく読んでまちがえないようにやってください。
- (5) 名まえのところは自分であとで書きます。

### 3 実施

(番号順に1名ずつ児童をテストをするへやに呼び入れる。)

- (1) 「始め。」
- (2) (3分たったら)「やめ。」
- (所定の時間はあらかじめ児童に知らせない。)

(3) (質問紙を裏向きにして渡し、)

「始め。」

(4) (5分たったら)「やめ。」

(5) 名まえのところを書きなさい。

(6) これでテストは終わりました。控え室に、はいつてはいけません。(他の室で自習させるなり、運動場で運動させるなり、適宜の処置をとる。)

(ひな型)

音読に際して、読みの態度等の観察表

学 校 名 \_\_\_\_\_ 実施年月日 \_\_\_\_\_

調査者氏名 \_\_\_\_\_

番号	児童氏名	音節ごとに ぽつりぽつ りと拾い読 みをする。	語ごとにつ かえながら ゆっくり読 む。	符号を無視 して読む。	読み誤りが かなり多い	内容にそぐ わない調子 で読む。
1						
2						
3						
4						

このひな型にならって、記入用紙をつくり、それぞれの該当欄に「V」印をつけてください。

〔I〕 見ながら書く

### Waraibanasi

(1)

Titi : Kyô wa nanniti datta ka ne?

Kodomo : Sâ, nanniti desita ka sira?

Titi : Soko ni sinbun ga aru kara hizuke o mite goran.

Kodomo : Dame desu yo. Kore wa kinô no sinbun desu kara.

(2)

“Sekai-iti no koto o kuhû sita!”

“Nan da?”

“Ame ga huttemo nurenai kuhû da.”

“Dô site?”

“Ame to ame to no aida o tôri-nukete iku no da.”

“Naruhodo.”

左がわを見て、下のわくの中へ、そのとおりにローマ字で書きなさい。

わかち書き・符号などにも注意して書きなさい。

小学校	4年 組	番号	名 まえ	男 女
-----	------	----	---------	--------



〔I〕ローマ字で書く

むかしの旅たびといまの旅たび

汽車きしやや自動車じどうしやのなかつたむかしの旅たびはどんなふう

うだったでしょうか。東京とうきやうから大阪おおさかまで行くいのに

1日いち10時間じかんあるいて、2週間しゆうかんもかかりました。雨あめ

が降りふつついて、あんまり水みずかさが増ますと、川かわは

こせないし、あるくこともなかなかむずかしいの

です。ですから、じっさいはもっとかかるわけ

です。

いまは、雨あめなんかには関係かんけいなく、特急とつきゆうで行いけば

8時間じかんで行いけます。

左がわには、漢字とかなで文が書いてあります。この文のとおりに下のわくの中へローマ字で書きなさい。大文字・小文字のつかいかた、わかち書き、符号などにも注意して書きなさい。

小学校	4年	組	番号	名 まえ	男 女
-----	----	---	----	---------	--------

〔Ⅲ〕 黙 読

小学校	4年	組	番号	名 ま え	男 女
-----	----	---	----	-------------	--------

〔も ん だ い〕 (1)

Mukasi aru mura ni turu ga takusan sunde imasita. Aru tosi, taihenna kikin ga kite taberu mono ga nan nimo arimasen desita. Turutati wa mainiti tabemono o sagasite arukimasita ga doko e ittemo nan nimo mitukaranai node, tabemono ga takusan aru tokoro o sagasô to, tôku no hô e tonde itte simaimasita.

Sosite, karada no yowai turu to sono oyomesan dake ga, mura ni nokoru koto ni narimasita. Karada no yowai turu wa minna no inaku natta sabisii ike no huti no kusamura ni tatte, minna ga tonde itta sora o mi-agete imasita.

Aru hi, turu no oyomesan wa ike no naka e kutibasi o tukkonde issyôkenmeini tabemono o sagasite imasita. Mainiti hotondo nani mo tabenai node, mô kesa wa sasuga ni hurahura ni natte, "Semete, tiisana sakana 1-piki demo ii kara inai ka sira," to omoinagara atira kotira sagasite imasita.

Sora niwa asahi ga kirakira to utukusiku kagayaki, siroi kumo ga pokkari to ukande imasita. Suruto, sibaraku site nanto mo ienai utukusii hue no ne ga kikoete kimasita. "Oya nan darô?" to omotte, oyomesan no turu wa onaka no suite iru koto mo wasurete, uttori to sono utukusii hue no ne ni kiki-itte imasita.

Sôtto, hue no ne no suru hô e aruite ikimasuto, zibun no syuzin no karada no yowai turu ga minarenai hue o huite iru no desita.

“Mâ! Anata ga huite irassyatta no!” to oyomesan no turu ga iimasita.

Karada no yowai turu wa huri-kaette hazukasisô ni, “Sakki ne, nani ka taberu mono ga nai ka to, sagasite ita no sa. Suruto ne, katin to katai mono ga sawatta node, awatete kuwaete mitara, kore datta no sa. Nan darô to omotte ne, atti o kuwaete mitari, kotti o kuwaete mitari site itara, yoko ni aite iru tiisana ana kara hutto utokusii oto ga deta no sa. Sono oto o kiitara, dô sita no da ka, onaka no suite iru no mo wasurete simatta no sa. Sosite ii kimoti ni natte, zutto huki-tuzukete ita no da yo.”

“Mâ, sô desita no, amari utokusii ne na node bikkuri simasita. Nan da ka, mukasi no tanosii koro no koto ga ukande kite, totemo kimoti ga yoku narimasita.”

Hue no ne ga amari utokusii node, onaka no suite 2-wa no turu wa, ima made taberu koto bakari kangaete, itumo kuyokuyo site ita koto ga bakabakasiku narimasita.

Sore made hutari no turu wa, zibuntati o oite tonde itte simatta nakama no turutati o urande, mainiti butubutu itte ita no desu ga, hue o hirotte kara wa, sono hue no ne ga amari utokusii node, sore kara no hutari wa tobosii tabemono nimo manzoku site, tanosikatta omoidebanasi ya tôku e itta nakama no turutati ga kôhuku de areba ii, to iu hanasi bakari o suru yôni narimasita.

“Ne, watasi wa sono hue no ne o kiite iruto, rainen wa nan da ka ii koto ga arisô na ki ga simasu. Kyô wa sukosi tôtei tokoro made sakana o sagasi ni itte kimasu kara, tokidoki sono hue o huite kudasai ne,” to oyomesan no turu ga iimasita.

“Aa, ii tomo, kega o sinai yôni site, itte oide.”

Oyomesan no turu wa sugu ni tobi-tatte ikimasita. Sibaraku tonde ikuto, tiisai ike ga arimasita. Ike no mizu ga tokidoki hane-agatte imasu. Nan darô to omotte, orite miruto, ima made ni mita koto mo nai hodo takusan no sakana ga hitokatamari ni atumatte oyoide iru no desita. Oyomesan no turu wa mutyû de sono sakana o tabemasita. Sosite syuzin no omiyage to site nanbiki ka no sakana o kuwaete, kasukani kikoete kuru hue no ne o tayori ni kaeri o isogimasita. Suruto, totyû de, kodomo o 3-ba mo tureta siri-ai no turu ni aimasita.

(2)

Oyomesan no turu wa bikkuri site tazunemasita. “Oya, mâ, zuibun hisasiburi desu ne. Dô nasatta no?”

“Ee, zuibun hidoi me ni aimasita. Doko e ittemo ii koto wa naku, tôtei kodomo wa hutari mo byôki de sinde simaimasita. Doko ka, ii tokoro wa nai ka to omotte, hôtei samayotte ita tokoro ga, nanto mo ienai utokusii hue no ne ga suru node asoko niwa kitto ii koto ga aru ni tigainai to omotte, yatte kita no desu.”

“Mâ! Hue no ne ga sonnani tôtei made kikoeru no desyôte ka? Are wa karada no yowai, uti no syuzin ga huite iru no desu yo.”

Sosite, oyomesan no turu no annai de issyoni tonde ikimasuto, sore wa zibuntati no misuteta mura datta node bikkuri simasita.

Oyomesan no turu wa nagai aida utokusii hue no ne o kiite, kokoro ga kirei ni natte ita node, donnani zibun ga komatte itemo, hoka no mono ni tabemono o wakete ageru koto o kimoti-yoku omou yôni natte imasita. Soko de, sassoku syuzin no omiyage ni siyô to omotte, motte kaette kita sakana de gotisô o kosirae, nagai tabi de tukarete iru turu no oya-ko ni tabesasete yarimasita.

Karada no yowai turu mo, oyomesan no turu mo honno sukosi tabeta kiri de, "Enryo sinaide oagari nasai, takusan tabete genki o dasite itte kudasai," to sikiri ni susumemasita node, oya-ko no turu wa namida o nagasite yorokobimasita.

Tui kono aida made wa, minna ga tabemono o kakusi-atte, zibun no koto dake sika kangaenakatta node, turutati wa yoruto sawaruto kenka o sitari, otagai ni damasiattari kizutuke-attari site imasita.

Konna hû ni, amari hidoi kikin datta node, minna mura o sutete itte simaimasita. Keredomo ima wa kaette mae yori mo heiwana mura ni nari, karada no yowai turu to oya-ko no turu wa mô donna koto ga attemo, kono mura de genkini hataraitte kurasimasyô to hanasi-aimasita.

Oyomesan no turu no tegara de, sakana no takusan sunde iru ike ga mitukarimasita node, kono 7-wa no turu wa itumo tanosii syokuzi o suru koto ga dekimasita.

Aru ban no koto, sore wa sore wa utokusii tukiyo de, kin'iro no hikari ga atari o terasite imasita. Sore o mite, karada no yowai turu wa mata hue o huki-dasimasita.

3-ba no kodomo no turu wa,

“Kireina otukisama da nâ!”

“Umareta mura ga itiban ii!”

“Kimoti no ii ban da ne, nani o kangaetemo tanosii ne,” nado to tanosisôni hanasi-atte imasita.

Otôsan no turu wa uttori to hue no ne ni kiki-itte imasita.

“Ara, nan da ka nigiyakana haoto ga simasu yo, minna ga kaette kita no desyô ka?” to okâsan no turu ga huini iimasita.

Yagate, kin'iro ni hikari-kagayaku sora kara 1-wa, 2-wa, 5-wa, 10-pa to, mura o misutete itta turutati ga hue no ne ni sasowarete kaette kimasita.

“Dare mo ibaranaide, tabemono o minna de wake-atte tabeyô to iu kimoti ni nareru nara kaette irassyai,” to karada no yowai turu ga iimasita.

Kaette kita turutati wa minna namida o nagasite yorokobimasita.

Sore kara wa, minna ga hataraki, minna de tabemono o nakayoku wake-atte tabemasita.

Nigiyakana utokusii turu no kuni wa ima mo doko ka ni aru no desyô ka?

〔Ⅲ〕 黙 読

小学校 4年 組 番号

名  
まえ

男  
女

〔し つ も ん〕

つぎ  
次のしつもん<sup>こた</sup>に答えなさい。まえに<sup>よ</sup>読んだ文<sup>ぶん</sup>を思い<sup>おも</sup>出して、しつもん<sup>だ</sup>の下<sup>した</sup>に書<sup>か</sup>いてある五つ<sup>こたえ</sup>の答<sup>こたえ</sup>のうち、いちばんよくあ<sup>おも</sup>っていると思<sup>おも</sup>うもの一つに○をつけなさい。

1) つるたちはなぜ<sup>むら</sup>村<sup>み</sup>を見<sup>み</sup>ずて、とおくへと<sup>み</sup>んでい<sup>み</sup>ったのですか。

- a その<sup>むら</sup>村<sup>あつ</sup>は暑<sup>あつ</sup>くて住<sup>あつ</sup>みにく<sup>あつ</sup>いから。
- b その<sup>むら</sup>村<sup>さむ</sup>は寒<sup>さむ</sup>くて住<sup>さむ</sup>みにく<sup>さむ</sup>いから。
- c わるい<sup>びょうき</sup>病<sup>びょうき</sup>気<sup>びょうき</sup>がは<sup>びょうき</sup>や<sup>びょうき</sup>ったから。
- d きき<sup>たべもの</sup>んで食<sup>たべもの</sup>物<sup>たべもの</sup>がな<sup>たべもの</sup>くな<sup>たべもの</sup>ったから。
- e 村<sup>そんちよう</sup>長<sup>そんちよう</sup>がわるい<sup>そんちよう</sup>こと<sup>そんちよう</sup>をし<sup>そんちよう</sup>るから。

2) およめ<sup>たべもの</sup>さんのつる<sup>たべもの</sup>が、食<sup>たべもの</sup>物<sup>たべもの</sup>をさ<sup>たべもの</sup>がし<sup>たべもの</sup>てい<sup>たべもの</sup>たとき<sup>たべもの</sup>に、聞<sup>きこ</sup>えてき<sup>きこ</sup>た音<sup>おと</sup>は<sup>おと</sup>なん<sup>おと</sup>です<sup>おと</sup>か。

- a た い こ
- b ふ え
- c ら っ ぱ
- d か ね
- e くちぶえ

3) およめ<sup>すこ</sup>さんのつる<sup>とお</sup>が、少<sup>すこ</sup>し<sup>とお</sup>遠<sup>とお</sup>い<sup>とお</sup>と<sup>とお</sup>ころ<sup>とお</sup>へ<sup>とお</sup>さ<sup>とお</sup>かな<sup>とお</sup>を<sup>とお</sup>さ<sup>とお</sup>が<sup>とお</sup>し<sup>とお</sup>に<sup>とお</sup>行<sup>い</sup>った<sup>い</sup>とき<sup>い</sup>、池<sup>いけ</sup>の水<sup>みず</sup>が<sup>いけ</sup>は<sup>いけ</sup>ね<sup>いけ</sup>上<sup>いけ</sup>っ<sup>いけ</sup>て<sup>いけ</sup>い<sup>いけ</sup>た<sup>いけ</sup>の<sup>いけ</sup>です<sup>いけ</sup>が、ど<sup>いけ</sup>う<sup>いけ</sup>し<sup>いけ</sup>て<sup>いけ</sup>池<sup>いけ</sup>の水<sup>みず</sup>が<sup>いけ</sup>は<sup>いけ</sup>ね<sup>いけ</sup>上<sup>いけ</sup>っ<sup>いけ</sup>て<sup>いけ</sup>い<sup>いけ</sup>た<sup>いけ</sup>の<sup>いけ</sup>で<sup>いけ</sup>し<sup>いけ</sup>ょう<sup>いけ</sup>。

- a 強い風がびゅうびゅう吹いていたから。
- b だれかが大きな石を投げこんだから。
- c かえるが何びきもつづいて飛びこんだから。
- d 一匹きの大きなさかなが、勢いよく泳ぎまわっていたから。
- e たくさんのさかなが、一かたまりに集まって泳いでいたから。

4) およめさんのつるが、帰る途中で会った知合いのつるはどうしましたか。

- a いっしょに飛んでいった。
- b あいさつをしてわかれた。
- c しらんかおで飛んで行ってしまった。
- d 長い間、話しあっていた。
- e つかれてしまって、もう飛べないと言った。

5) 村をみすてたつるたちが、みんな帰ってきたのはどんな晩でしたか。

- a 晴れわたって寒かった。
- b 雨がふっていた。
- c うつくしい月夜だった。
- d 三日月が出ていた。
- e 風が吹いていた。

〔Ⅳ〕 音 読	小学校	4年	組	番号	名 ま え	男 女
---------	-----	----	---	----	-------------	--------

Hudan, watasitati ga oto o ii-arawasu tame ni tukatte iru kotoba o mimasuto, ôku wa iroiro no mono ga tateru oto o



sono mama tottari, sorera no mono ni nite iru oto o arawasu on ga tukatte attari simasu.

Tatoeba, "patapata patapata," to ieba, kodomo ga kakete iku toki no asioto nimo kikoemsau si, hataki de syôzi o hataite iru toki no oto nimo kikoemasu.

"Parapara parapara," to iuto, ame ga amado ni ataru oto no yô de mo ari, hon no pêzi o hayaku mekuru toki no oto no yô de mo ari, kareha ga ato kara ato kara otite kuru toki no oto no yôni mo kikoeru dewa arimasen ka.

"Dosin dosin," to iuto, nan da ka sumô-tori ga aruite iru yô desyô. Mata, maruta ka nani ka de, zimen o tuyoku utte iru oto no yôni mo kanzimasu ne.

Mata, "gatyân," nante oto ga kikoeyô mono nara, "Sora, tyawan o otosite watta na," to kimete simaimasu.

"Biribiri," to iu oto o kikeba, kire ka kami o hiki-saku oto da to kangaeru desyô si, "piripiri," to ieba, kisyâ ya densyâ no syasyô san no huku hue no oto nado o omoi-dasimasu ne.

Oto o arawasu kotoba o sirabete mimasuto, dono kotoba mo kitto hontô no oto to tunagari ga attari, sono oto to yoku nite itari suru koto ga wakarimasu.

Desu kara, onazi yôna oto o tateru mono niwa onazi kotoba ga tukatte arimasu. Tatoeba, "sarasara," to iu kotoba wa ogawa no nagare no oto nimo tukaimasu si, soyokaze ga ki-no-ha o ugokasu oto nimo, kawaita komakai suna nado o kobosu toki no oto nimo tukaimasu.

"Ponpon," to iu kotoba mo, hanabi o uti-ageru toki no oto nimo, gomu-mari ga hazumu toki no oto nimo, mata okotta toki no iikata nimo tukaimasu. Mottomo, kore mo oto no

tyôsi ya kiku hito no kimoti ni yotte ikura ka tigai no aru koto wa iu made mo arimasen.

Sikasi hantai ni, onazi mono no tateru oto demo, toki ni yotte, tokoro ni yotte taisô tigatte kikoeru koto ga arimasu. Tatoeba, kaminari no oto ga sô desu. Tôku de naru no to, sugu atama no ue de nari-wataru no to dewa sono oto wa marude tigatte imasu.

“Gorogoro,” to kasukani kikoete iru uti wa mada heiki desu ga, “gorogoro’,” to nari-wataru yôni naruto, mô yohodo tikaku natta syôko de, sono ue inabikari ga pika’ pika’ to, hikatte kuruto, yowamusi no kodomo wa sorosoro aoku nari-dasimasu. Sore ga “garagara’,” “dadadân,” nado to nari-wataruto, mimi o osaete kaya no naka de tiisaku natte simau hito mo aru desyô.

Mizu no nagare ni tuite mo onazi koto ga iemasu. “Tiro-tiro,” to ka “tyorotyoro,” to ka iuto, ika nimo utukusiku suki-tôtta mizu ga, iwa no aida kara nagare-dasite iru yô desu ga, “zâzâ,” to ka “dôdô,” to ka iuto, ôkina tanigawa no susamazii nagare ya, taki no oto nado ga atama ni ukande kimasu. Sore ga “gobogobo,” to ka, “gabagaba,” to ka iu oto ni naruto, kuti no hosoi bin o sakasama ni site, mizu o nagasi-dasite iru na, to omoimasu si, “zyâ,” to ieba, zimen ni mizu o kobosite iru oto da, to omou desyô.

“Uma ga ‘mô’ to inanaita,” “Neko ga ‘wanwan’ to naku,” nado to ittara okasii si, “Mon no tobira o ‘garagara’ tatakû,” to ka, “Hikôki ga ‘tintin’ to iu oto o tatete tonde itta,” nado to ieba warawareru desyô.

Tumari, oto o ii-arawasu kotoba niwa, sono oto ni itiban nite iru on o erande tukawanakereba naranai no desu.

〔IV〕 音 読

小学校	4年組	番号	名まえ	男 女
-----	-----	----	-----	--------

〔し つ も ん〕

I いま<sup>よ</sup>読<sup>ぶん</sup>んだ文<sup>なか</sup>の中で、次<sup>つき</sup>の三<sup>おと</sup>つの音<sup>おと</sup>をいいあらわすことばは、どんな音<sup>おと</sup>であるか<sup>か</sup>と書いてあり<sup>おと</sup>ましたか。書<sup>か</sup>いてあ<sup>か</sup>ったもの<sup>か</sup>が一つだけありますから、それ<sup>か</sup>に○をつけて<sup>か</sup>てください。

1) patapata

- a こどもがけんかを<sup>おと</sup>するときの音<sup>おと</sup>。
- b しごとを<sup>おと</sup>はやくかたづけ<sup>おと</sup>るとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。
- c つづいて木<sup>き</sup>がたおれ<sup>おと</sup>るとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。
- d はたきで<sup>おと</sup>しょうじをはた<sup>おと</sup>いて<sup>おと</sup>いるとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。
- e 旗<sup>はた</sup>が<sup>つよ</sup>強い<sup>かぜ</sup>風<sup>おと</sup>にはた<sup>おと</sup>め<sup>おと</sup>いて<sup>おと</sup>いるとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。

2) dosin dosin

- a ぞうが<sup>ある</sup>歩<sup>おと</sup>くとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。
- b すもう取<sup>と</sup>りが<sup>ある</sup>歩<sup>おと</sup>くとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。
- c ひこうき<sup>お</sup>が<sup>お</sup>落ち<sup>おと</sup>たとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。
- d ふと<sup>ひと</sup>った人<sup>おと</sup>が<sup>おと</sup>ころ<sup>おと</sup>んだとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。
- e 大<sup>おお</sup>きな<sup>いし</sup>石<sup>おと</sup>を<sup>おと</sup>ころ<sup>おと</sup>が<sup>おと</sup>すとき<sup>おと</sup>の音<sup>おと</sup>。

3) gatyân

- a <sup>きしや</sup> 汽車がしょうとつしたときの音。<sup>おと</sup>
- b おもちやばこをひっくりかえしたときの音。<sup>おと</sup>
- c じてんしゃがたおれたときの音。<sup>おと</sup>
- d <sup>ちや</sup> 茶わんを<sup>おと</sup>落してわったときの音。<sup>おと</sup>
- e やかんがぶつかりあうときの音。<sup>おと</sup>

II <sup>つき</sup> 次の<sup>ひだり</sup>左がわと<sup>みぎ</sup>右がわとを<sup>せん</sup>線でむすびつけて、<sup>いみ</sup>意味の<sup>ぶん</sup>とおる文にしなさい。

Parapara	to ikioi-yoku yabutte suteta.
Biribiri	to kikoeru no wa kaminari da.
Sarasara	to ame ga huri-dasita.
Gorogoro	to iu nakigoe ga kikoeru.
	to nagarete iru kireina ogawa.